

平成19年度に実施された事業の結果報告及び今後の方向性(概要)

※本ページは各事務事業の概要紹介と20年度の報告を目的としています。評価の詳細については次ページをご覧ください。

事業名	所沢カルチャーパーク築造事業	所管	道路公園部みどり公園課
			Tel 2998-9196

事業目的 (何の為に 行うか)	貴重な武蔵野の平地林を活用し、市民が自然観察や散策の場として身近な自然とふれあえる環境の保全と整備を行なうと共にオオタカの安定した生息環境の保全を図る。
-----------------------	--

事業の 具体的 な内容	計画 全体	所沢カルチャーパークは全体面積 25.7haの都市公園事業で自然環境に配慮した総合公園である。今後、自然環境を保全しながら市民利用に繋がる主たる施設整備と散策路等の整備を財政状況を鑑み進めることに努める。
	平成 19 年度	山林3筆の用地買収を行った。(約297㎡)

事業の 推進状況	進捗率	～平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	終了予定年度
		71.3	71.3	71.4				平成 23 年度
	見込まれる総事業費(千円)		14,738,517			事業開始からの累計額(千円)		10,521,247

H19 経費	当初予算額(千円)	決算額(千円)	事業費合計(千円) ※人件費・公債費を含む	市民一人当たり単価(円)
	245,851	237,837	477,119	1,407.2

成果 (結果として どうなったか)	成果指標名	説明 (計算方法等)	目標値	実績	達成率
	用地取得面積	取得済面積／全体計画面積	25.7 単位 ha	17.5 単位 ha	68.1 単位 %

今後の 方向性 (所管の 意見)	◎事業計画の見直しの必要性・・・ 有り * 無し ◎事業実施方法の見直しの必要性・・・ 有り * 無し
	◎総事業費見直しの必要性・・・ 有り (増額 減額 休止 終了) * 無し

今後の 方向性 (二次評価 の意見)	二次評価実施の有無 * 有り⇒下記評価へ 無し⇒終了	
	総合 評価	拡充 縮小 統合 * 改善・効率化 改善余地なし その他〔 〕 終了
	予算	* 現状どおり 増額 減額 終了

平成 20 年度事務事業評価表(公共事業用)

事務事業名	担当	部課コード	070500	TEL	2998-9196
事業コード 070504	所沢カルチャーパーク築造事業	道路公園部みどり公園課			
開始年度	昭和 61 年度	→	終了年度	平成 23 年度	
事業の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 土地利用	<input type="checkbox"/> 土木建設	<input type="checkbox"/> 建築	<input checked="" type="checkbox"/> 補助	<input type="checkbox"/> 単独
根拠法令	都市緑地法・都市公園法・都市計画法				
分野別計画・指針	所沢市緑の基本計画				
関連・類似事業	小手指ヶ原公園築造事業				
総合計画の体系	政策	第1章 緑豊かな ゆとり・うるおいのあるまち	施策	2節 公園・緑地	中柱 2 公園の整備
					小柱 (1)地域の特性を活かした公園の築造
	・H19市民意識調査における施策の順位…43施策中 18 位 ・実施計画における位置づけ… H19 ○ H20 ○				
行政改革大綱における行動計画への位置づけ					
コード	1131	計画段階からの市民参加の充実	コード	1311	ユニバーサルデザインの推進
			コード	3221	公共工事のコスト構造改革
事業開始の背景	余暇を文化・スポーツ活動などのレクリエーションに充てる市民意識の高まりを受けて、自然の雑木林の中でスポーツ活動ができる運動公園を築造するために開始された事業である。その後オオタカの営巣と繁殖に重要な地域であることが確認されたため、運動公園から自然環境保全型の総合公園の築造へと整備方針変更された。				

②事業内容	目的(何のために行うのか、具体的に)
	貴重な武蔵野の平地林を活用し、市民が自然観察や散策の場として身近な自然とふれあえる環境の保全と整備を行なうと共にオオタカの安定した生息環境の保全を図る。
	事業開始後の環境変化(人口推移等の社会経済情勢の変化、自然環境の変化等)と対応
	当初計画のスポーツ・文化活動の拠点として運動公園は、予定区域内の動植物生態調査を行った結果、オオタカの営巣と繁殖に重要な地域であることが確認されたことから自然環境を保全する総合公園へと計画変更した。また、関係地権者の高齢化による相続の発生が出てきている。
	事業の具体的な内容及び実施方法
	計画 所沢カルチャーパークは全体面積 25.7haの都市公園事業で自然環境に配慮した総合公園である。
	全体 今後、自然環境を保全しながら市民利用に繋がる主たる施設整備と散策路等の整備を財政状況を鑑み進めることに努める。
	H 19 山林3筆の用地買収を行った。(約297㎡)

③事業の推進状況	事業の進捗率(%) (事業費ベース進捗率)	総事業費(予)(千円)
	平成18年度 平成19年度 平成20年度 平成21年度 平成22年度 平成23年度 終了予定年度	
	71.3 71.3 71.4 平成 23 年度	14,738,517
	解決すべき課題とその対応策	H19までの事業費累計(千円)
	平成18年度に事業認可期間の5年間の延伸を行い、今後、市民利用に繋がる主たる施設整備と散策路等の整備のため、補助金の有効活用を行い投資効果の現れる整備計画を目指す。	10,521,247

④経費	《会計種別》	一般会計	平成 18 年度 (千円)	平成 19 年度 (千円)	平成 20 年度 (千円)
	当初予算		258,019	245,851	235,498
	決算(見込み含む)		240,937	237,837	
	正規職員人件費	0.80 人	7,360	0.80 人	7,515
	公債費		229,498	231,767	
	事業費合計		477,795	477,119	
	財源内訳	一般財源	477,795	477,119	235,498
		国・県支出金			
		受益者負担金			
		市債			
		その他			
	市民一人当たり(単位:円)		1,414.1	1,407.2	

⑤指	項目名	計算方法	単位	H 18	H 19	H 20	将来目標
	成果分析	用地取得面積	取得済面積/全体計画面積	ha	25.7	25.7	25.7
				%	17.5	17.5	25.7
				%	68.1	68.1	25.7
標	成果指標の設定理由及び目標値の考え方	自然環境保全型の公園であるため、用地取得を行い緑地として保全活用ができる面積を目標値としている。					

⑥一次評価	評価項目	評価内容
	妥当性	事業の優先度・緊急性 当事業は、平成18年度に事業期間の延伸を行い認可されたが、今年度の再評価によって事業継続が認められた場合、国庫補助事業として未買収地を計画的に取得し早期の全面開園を目指す。
	効率性	事業実施手法の効率化及びコスト削減の取り組み 自然環境保全型の公園であるため、事業区域内の雑木林や自然環境の保全に配慮し必要最低限の整備とする。
	効果・便益	事業に要する費用と効果(便益)の比較 緑と健康・レクリエーション空間を求める市民要望は高く、本事業により多くの効果が期待できる。市域東部の総合公園として用地取得も進捗し、便益性は高い。
	H 20	今期目標項目(何を) 達成水準(どこまで) 時期(いつまで)
	目標設定	平成21年度からの補助金導入のため公共事業再評価の実施に伴い再評価委託を発注し、事業の推進を図る。 所沢市公共事業評価委員会の評価員申を得て、事業継続の決裁により補助金要望を行うこと。 平成20年10月まで
		再評価に伴う買収及び築造計画の再検討 再評価後の買収及び築造計画を策定する。 平成20年10月まで
	総合評価	事業計画の見直しの必要性 <input type="checkbox"/> 見直しの必要有り ⇒ <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの必要無し ⇒ 理由: 本事業は市域東部の総合公園として自然環境の保全および緑豊かなまちづくりの上で必要不可欠の事業である。
		事業実施方法の見直しの必要性 <input type="checkbox"/> 見直しの必要有り ⇒ <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの必要無し ⇒ 理由: 自然環境を保全しながら市民利用を図る上で必要最小限の施設と散策路等の整備を財政状況を鑑み進めることに努める。
		今後の事業必要費見直し理由 <input type="checkbox"/> 見直しの必要有り⇒(<input type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終了) <input checked="" type="checkbox"/> 見直しの必要無し
		今後、最大限の補助金の活用を行い、自然環境を保全しながら市民利用を図る上で必要最小限の施設と散策路等の整備を進めていく。
	評価日	平成20年5月23日 記入者職氏名 道路公園部みどり公園課長 並木 隆

⑦二次評価	事後評価	事業の方向性
	総合評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 改善余地なし <input type="checkbox"/> その他 [] <input type="checkbox"/> 終了
	予算	<input checked="" type="checkbox"/> 現状どおり <input type="checkbox"/> 増額 <input type="checkbox"/> 減額 <input type="checkbox"/> 終了
	事前評価	部内優先順位... 7 位 非常に高い 高い やや低い 低い 優先度 <input type="checkbox"/> A:優先的に資源配分をするべきと評価する事務事業 <input checked="" type="checkbox"/> B:重要であり引き続き実施すべきと評価する事務事業 <input type="checkbox"/> C:現状での実施は見送るべきと評価する事務事業
	見込まれる貢献度	総合計画上位目標 <input checked="" type="checkbox"/> 市長マニフェスト <input checked="" type="checkbox"/>
	評価理由	緑地保全型の公園であり、市長マニフェストにも適合するとともに野生動物の存在も確認されていることなどから、「引き続き実施」すべきと評価した。

⑧外部評価	《外部評価の実施》	H19 <input checked="" type="checkbox"/> H20 <input type="checkbox"/> 【下記は平成19年度に実施した評価及び対応です。】
	評価	・貴重な自然を擁するこの公園の魅力を引き出すには、市民を巻き込んだ自然観察等のプログラムが必要である。庁内関係課はもろもろ市民にも早くから働きかけて試行を始め、時間を要しても取り組み続ける必要がある。・原っぱ広場は、誰もが憩える本公園を代表するスペースであるものの、ユニバーサルデザインの観点から施設間のアクセスに問題がある。この点を改善することにより、さらに利用が進むものと考えられる。配慮が必要である。
	対応	用地取得により、連続的、一体的な状況が確保された段階でユニバーサルデザインに配慮した案内板等の設置を進めていく。また、原っぱ広場は、草地の保持に努めて行く。

⑨環境基本計画	本事業の左記計画における位置づけ... 有り	計画コード	241
施策体系	2-4オープンスペースの創造	施策の方向	2-4-1公園の整備